

氏 名：佐々木菜名代

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲第119号

学位授与年月日：2014年3月10日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文審査委員：井部 俊子（聖路加看護大学教授、主査）
中山 和弘（聖路加看護大学教授）
松谷美和子（聖路加看護大学教授）
金井 Pak 雅子（東京有明医療大学）

博士論文審査結果

審査日：2014年1月24日

研究科委員会提出日：2014年2月18日

看護学研究科博士後期課程	氏名	佐々木 菜名代
専攻分野	看護管理学	
論文題名	病棟における看護職のチーム・エンパワーメントモデルの構築	
審査委員	職名・専攻他	氏名
	主査	学長・看護管理学 井部 俊子 井部 俊子
	副査	教授・看護教育学 松谷 美和子 松谷 美和子
	副査	教授・看護情報学 中山 和弘 中山 和弘
副査	教授・基盤看護学領域(看護管理学)	金井 Pak 雅子(東京有明医療大学)

審査の合否および評価 (合)・否

本研究は、「病棟における看護職のチーム・エンパワーメントモデル」を構築するために、先行研究から仮説を立て、予備研究で看護職のチームに生じている現象の観察データも含めて作成した質問紙調査結果の分析にもとづいて仮説モデルを修正し、病棟における看護職のチーム・エンパワーメントモデルを構築したものである。このモデルは、「組織の特質と職務の特質」、「チーム・エンパワーメント」、「チーム・プロセス」、「作業チームの効率性」の4つの下位概念で構成され、概念間には、個人レベルの影響と病棟レベルの影響があった。研究は、尺度開発のための項目の精選プロセスは周到に進められ、精力的にデータを集め、マルチレベル分析により看護師個々の反応と病棟というチームの反応をモデルによって示したことの意義は大きい。

審査では、以下の指摘がされた。①データの分析は、管理者データとスタッフデータを分けて行ない、マルチレベル分析にあたって、病棟毎の回答数を提示する。②併存妥当性で用いている健康いきいき理論に、本研究の「チーム・エンパワーメント」データを投入して、一般的な労働モデルにおけるチーム・エンパワーメントの妥当性を確認する。③ドナベディアン理論など、医療界で用いられる既存の枠組みを用いて、本研究モデルとの関連性を記述する。④マルチレベル分析に用いた統計学的手法の解説を記述し、モデルの図式化を再検討する。⑤変数がモデレーターなのかメディエーターなのかを確認する。⑥考察ではモデルの作成よりも尺度開発を先行して記述する。⑦作表は、わかりやすいものにする、「デモグラフィック」の使い方、小数点以下の処理など記述上の修正。⑧英文アブストラクト、文献リストの吟味をすること。

これらの指摘事項については、適切な修正が行われたと判断された。

本研究は、病棟における看護職のチーム・エンパワーメントという概念が日本の臨床においても有用であるかを検証したものであり、看護管理者が組織運営や組織変革を行っていく上で有効な方略を検討する際に重要な看護管理学上のエビデンスをもたらすものである。

本論文は、本学学位規程第5条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験は合格と判定する。